

20 年以上患っているリウマチによる心と身体のバランスの欠如が
徐々に改善していったケース

JPHMA ホメオパス認定番号：0854
ホメオパシーセンター北九州小倉北
辛 島 恵 美

1. 主訴（72 歳女性）

- ① リウマチによる様々な部位の痛み（右肘の痛みが酷い）
- ② 腰痛（70 歳の時に腰骨圧迫骨折以来）
- ③ 皮膚の痒み
- ④ 朝が調子悪く、なかなか起き上がれない（関節のこわばりと痛みが強い）

2. タイムライン

両親が農家で忙しく、甘えることもできず常に親を手伝う。学校から帰ると農作業を手伝った。中学 2 年生の時に父親が他界。‘人から見下げられない態度をとらなければ’と思い、アルバイトもした。兄が働き高校まで出してくれた。

50 歳前から関節に違和感が出てきた。

その後両膝が痛くなり受診したがリウマチとは言われなかった。54 歳で足裏、足指、手指に痛みがでた。血液検査でリウマチと診断。

薬を服用しはじめ、副作用による不調が増えた。20 年を経過した頃には薬が 10 種類近くに増え骨が脆くなり腰の骨を圧迫骨折した。

このままどんどん悪くなって、何もできなくなるのではないかと不安になった。

3. 健康相談

1 回目（2024.02.06）

20 年に渡りプレドニゾロンを服用。その他痛み止めを含む 9 種類の薬を服用していたため、ホメオパシーについての説明を詳しくすることで、好転反応がでることを理解していただいた。

プレドニゾロン服用歴が長いため、レメディーが多く入っているサポートチンクチャーは使用せず、MT) ボラーゴを中心に副腎のケアを行い、強い痛みに対処するため Stront-c. Guai. Rhus-t.を選択。

粒) TS サポート骨と歯を 1 日 3 回飲んでもらい、脆い骨に対処。

水のレメディー Otoshim-w.で見下されたり、ダメな奴扱いされて怒っている心に再び気づいてもらい、自分を認められるように促した。

2回目～4回目は同じようなレメディー（2024.04.18～2024.08.17）を続ける

（1回目を飲んでからの感想）

- ・レメディーを飲み始めてから、身体の底力がでてきた。
- ・痛みが出るのが怖くて痛み止めを毎日朝晩飲んでいたが、この2ヶ月は3回のみ。薬なしでいられることに驚いている。
- ・右肘は痛いままだが、痛いときは少し休めるようにすると落ち着く。

■血液検査のリウマチ因子（正常値 15.0 迄）2024 年 3 月時点で 19.1

CRP（炎症値 正常値は 0.14 迄）0.24

相談会が進むにつれ数値が悪化。

2024 年 7 月時点でリウマチ因子 63.1、CRP2.45 迄上昇。

4 回目（2024.10.03）

痛みが強くなり、痛み止めの回数を増やして痛みをコントロールする。
痛みや強ばりで辛くなるが、心がどんどん解放されていく。
自分の姿を人に見られるのが嫌だったが外に出たいという意欲がでてきた。

4 回目の健康相談後の血液検査（2024.11.12）では、

リウマチ因子 47.1 CRP 1.33 になっていた。

この時一緒に骨密度の検査では、年齢よりも 10 歳程若い骨と言われた。

5 回目（2024.12.20）

- ・朝の手足のこわばりはあるがすぐに落ち着く。
- ・くよくよ悩むことが減った。
- ・この病気は私のこだわりの強さが原因だった。自分で自分を責め続けたからだと感じることができた。その瞬間、心が蝶のように軽くなった。
- ・欲を言えばきりが無いが、できることが増えたことに感謝できるようになった。

（TBR）

300-下肢-足指-関節（指関節および中指関節）

272-体肢-上肢-手指-関節（指関節）

#1023-全般-全般-動き-困難な

#1019-全般-可動性-の喪失（無動）-患部の

305-栄養（消化）-肛門（および直腸）-直腸；痔

420-栄養（紹介）-排便及び大便-便秘-便の硬さから

#1340-全般-皮膚全般-皮膚の色が-血の気のない（鉄欠乏性貧血）

#1687-基調-時間-朝に

Sulph.が示唆されるが、プレドニゾロン服用歴が長いため使用していない。
骨の形成によい Calc-p.を使用。
強い関節のこわばりに Guai.と Kalm.を選択。

（レメディー選択）

随時：MT）ボラーゴ+GuaiLM7+Kalm.30C+Calc-p.12X+Rhus-t.LM7

朝：アルポ Kali-c.LM05+Tub-b.LM06+Syph.LM06

夜：アルポ SepLM07

寝る前：Iizun-w.30C（霊性の不一致による悪化を起こさないために）

朝・夜：粒）サポート血液浄化（血液量の不足に）

6 回目（2025.03.12）

・リウマチ因子 41.6 CRP 0.28

・朝は痛みが強く寝たきりだったが、朝 6 時 30 分には起きられる。

孫の送り迎えなどの世話ができるようになった。

・人の目が気にならず、出かけられるようになった。

（レメディー選択）

随時：MT）ボラーゴ+GuaiLM8+Kalm.6C+Lyc.Lm8+Iizun-w.6C+Onkokin6C

朝：アルポ Calc-p LM06+SyphLM07+Tub-b.LM07

夜：アルポ Rhus-t. LM08

7 回目（2025.06.05）

・リウマチ因子 29.8 CRP 2.10

・朝は継続して 6 時 30 分に起きることができる。

・手足のこわばりはあるが、動かしていたら慣れる。

・今までは葉物野菜しか切ることが困難であったが、硬いものも切ることができるようになった。

・ご主人がいろいろ気遣ってくれるようになった。

そのこと自体に目を向けられるようになった。人の優しさに気づいていなかった。

(TBR) は使用していない。

骨のために液) サポート骨を使用。

貧血があるため、Ferr-p.+Chin.を使用。

副甲状腺はカルシウム代謝に関わるパラトルモンというホルモンを作っている。

血中のカルシウムとリン酸濃度の調整を保つために使用。

(レメディー選択)

随時1：液) サポート骨+Ferr-p.12X+Rhus-t.6C+Chin.6C+Parathyr-gl.12X+Nat-c.6C

朝：アルポ Calc-p. LM07+Syph.LM08

夜：アルポ Nux-v. LM09

随時2：MT) ハマメリス+Aloe30C+Nat-bic.6C+Onkokin30C (痔のために選択)

朝昼晩：粒) TS サポート骨と歯 (骨のサポート)

4. 結果

プレドニゾロンは継続して服用しているが、痛み止めを飲む回数が激減。

リウマチ因子が 19.1→63.1→29.8 まで下がってきた。

高血圧の薬は半分に減り、先生に相談して今後の服用を決める予定。

半日は寝たきりの生活が主だったが、朝から起きて生活ができる。

気持ちが前向きになり、今できることに目を向けられるようになった。

5. まとめ

幼少時より我慢の多い暮らしで、甘えることが許されなかった。早く大人になる必要があり、自分にも他人にも厳しかった。決まったことをきちんとしなければほかの人から白い目で見られるのではないかという思いが自分自身を追い詰めた。

心と身体に同時にアプローチすることで、自分だけが我慢しなくてもいい、人に頼ることは悪いことではない等の気づきが促され、身体にも変化が起きた。

今は毎日を楽しみ、今できることに感謝しながら生きていますと報告をいただいた。

ケース発表は以上になります。最後までご覧いただきありがとうございます。

ホメオパシーは何歳になっても取り入れることができる療法です。工夫すれば、病院に通っていてもレメディーを使うことは可能です。今、必要な方に届きますように。